

令和4年度 体罰に関する意識調査結果

1 目的

令和2年4月に改正児童福祉法等の施行により体罰禁止が法定化されたことを受け、神奈川県児童相談所において体罰未然防止に係る様々な事業を行った。

事業実施による普及啓発効果を検証するため、昨年度に引き続きインターネットによる意識調査を実施した。(今回で3回目)

2 対象

神奈川県民(インターネットにアクセスし、回答した人)

3 調査期間

令和5年1月10日(火)から同年2月10日(金)まで

4 方法

神奈川県中央児童相談所のホームページにアクセスし、性別、年齢及び以下5つの質問に回答(個人のパソコン、タブレット、スマートフォンで回答)

児童相談所、市町村児童福祉主管課、所管保育所等でのポスター掲示、児童相談所公式Twitterでのツイート、子ども家庭110番相談LINEプッシュ機能通知等を活用し周知を行った。

質問1 体罰が法律で禁止されたことを知っていますか。

質問2 しつけのために子どもを叩くことは必要だと思いますか。

質問3 体罰が子どもに与えると考えられる影響を知っていますか。

質問4 体罰以外のしつけの方法を学びたいと思いますか。

質問5 子どものために必要なしつけとは、どのような方法で行うことだと思いますか。

数値の見方 本文及びグラフの数値は、その表章単位に合わせて計算された数値を四捨五入しているため、合計と内訳の数は必ずしも一致しない。

5 集計結果と分析

体罰禁止に関する認知度(質問1に「知っている」「聞いたことがある」と回答した人の割合)は85.6%で、令和3年度調査(87.4%)と比較し1.8ポイント減少した。

体罰の容認度(質問2に「そう思う」と回答した人の割合)は3.1%で、令和3年度調査(3.0%)とほぼ変わらなかった。性別では男性が、年齢別では40代が体罰を容認する傾向が見られた。(令和3年度は、性別は同じだが、年齢別は20代が最も高かった。)

子どもへの影響の認知度(質問3に「知っている」と回答した人の割合)は53.5%で、令和3年度(54.0%)と比較し0.5ポイント減少した。

体罰以外の方法を学ぶ意欲に関する割合(質問4に「そう思う」と回答した人の割合)は66.8%で、令和3年度(68.4%)と比較し1.6ポイント減少した。

「子どものために必要なしつけ」（自由記載回答）については、いずれの性別、年齢においても「体罰以外の方法」という回答が多かった。次いで多かったのは、男性では「状況により体罰は必要」で、女性では「わからない・悩む」「状況により体罰は必要」などが多かった。年齢別では、0歳～19歳が「状況により体罰は必要」、20歳～29歳が「状況により体罰は必要」、30歳～39歳が「難しい」、40歳～49歳が「わからない・悩む」、50歳～が「状況により体罰は必要」であった。

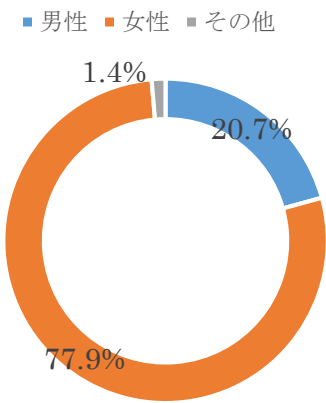
①回答者集計

回答者数：1,078人

■性別

	人数	割合
男性	271人	20.7%
女性	1,019人	77.9%
その他	18人	1.4%
総計	1,308人	

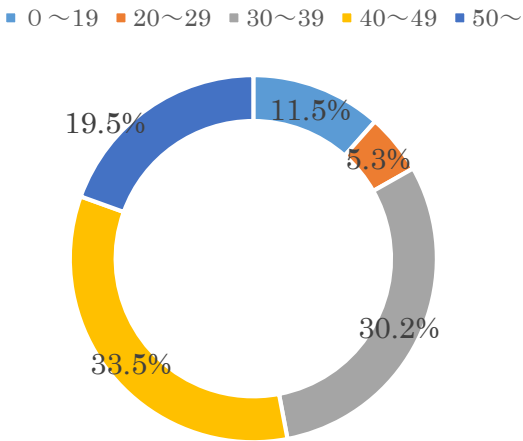
グラフ1



■年齢別

	人数	割合
0～19	151人	19.5%
20～29	69人	5.3%
30～39	395人	30.2%
40～49	438人	33.5%
50～	255人	19.5%
総計	1,308人	

グラフ2



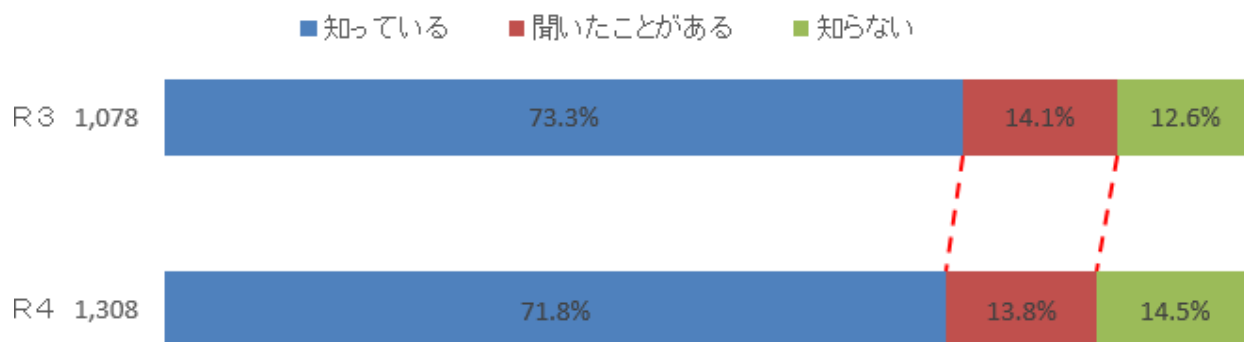
②各質問への調査結果

各質問への回答について、質問1～質問4については昨年度との比較、男女別の比較、年齢別の比較を行った。

質問5については、回答を17項目のカテゴリーに分類し、性別、年齢別の回答傾向を出した。

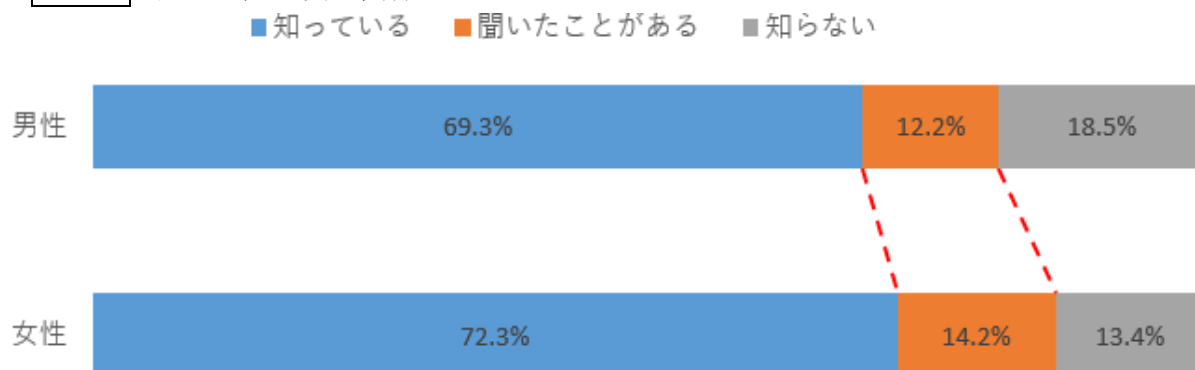
質問 1 体罰が法律で禁止されたことを知っていますか。

グラフ3 令和4年度との比較



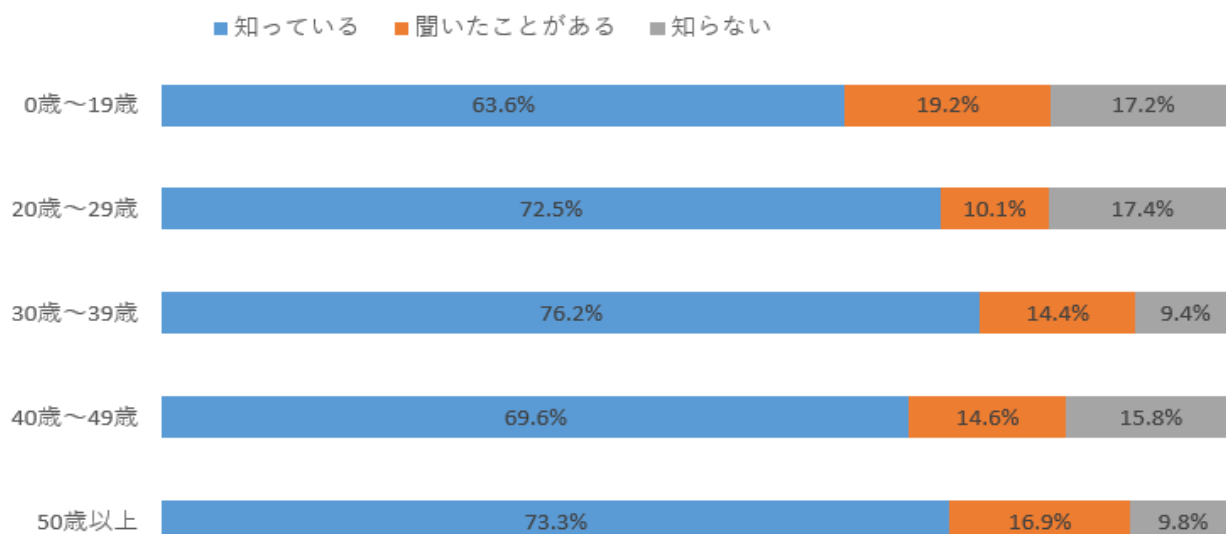
「知っている」の割合を比較すると令和4年度では1.5ポイント減少している。

グラフ4 性別と認知度の関係



性別では、女性の方の認知度が3ポイント高い。

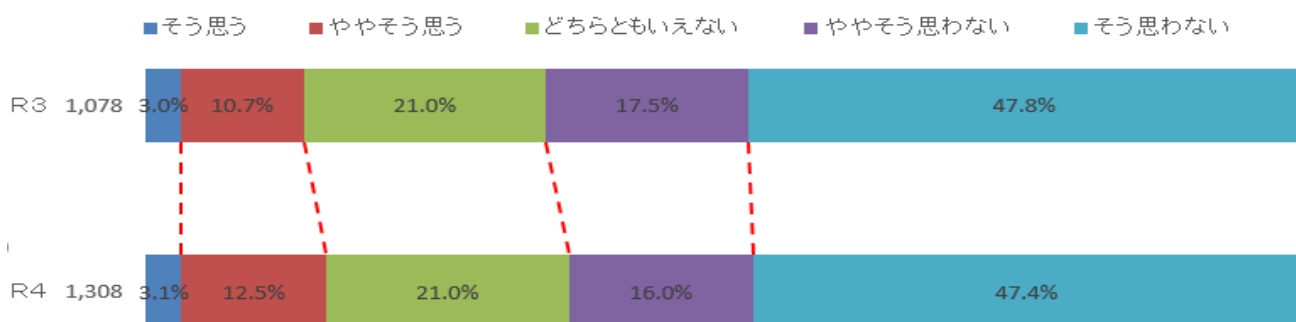
グラフ5 年齢と認知度の関係



年齢別では、30代が「知っている」の割合が最も高く、20代が「知らない」の割合が最も高い。

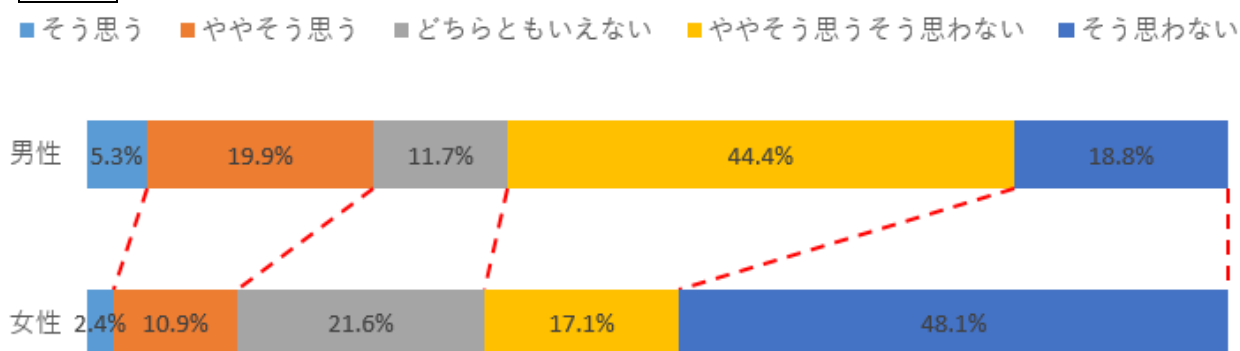
質問2 しつけのために子どもを叩くことは必要だと思いますか。

【グラフ6】 令和3年度との比較



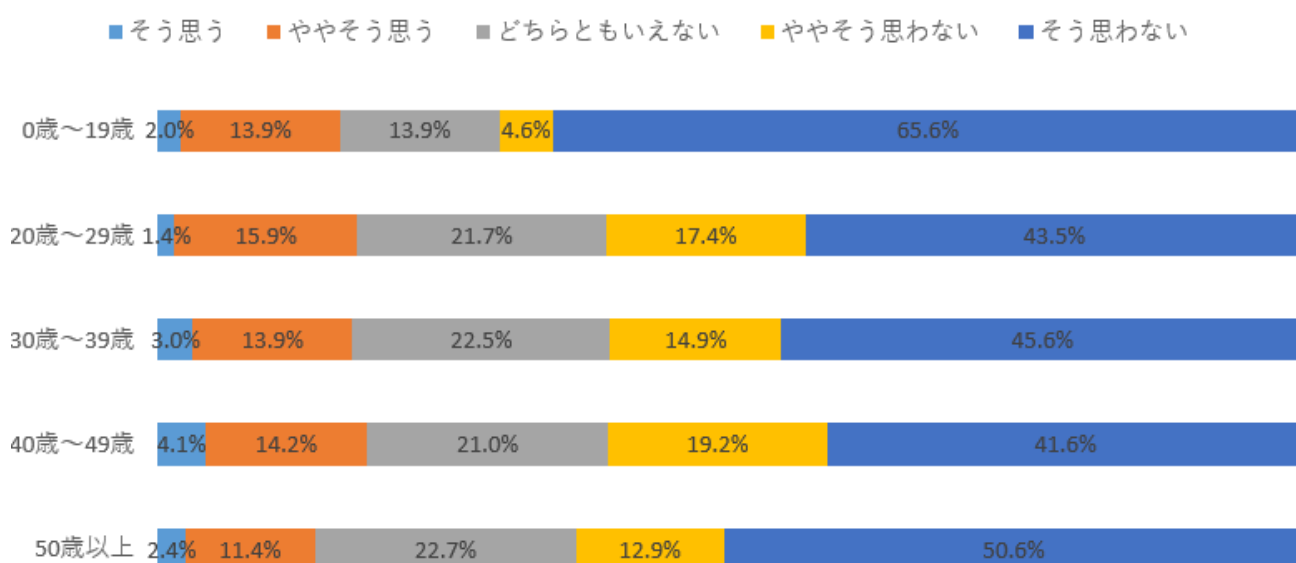
令和4年度では、「そう思わない」の割合は0.1ポイント上昇している。

【グラフ7】 性別と体罰容認の関係



「そう思う」の割合は、男性の方が2.9ポイント高い。

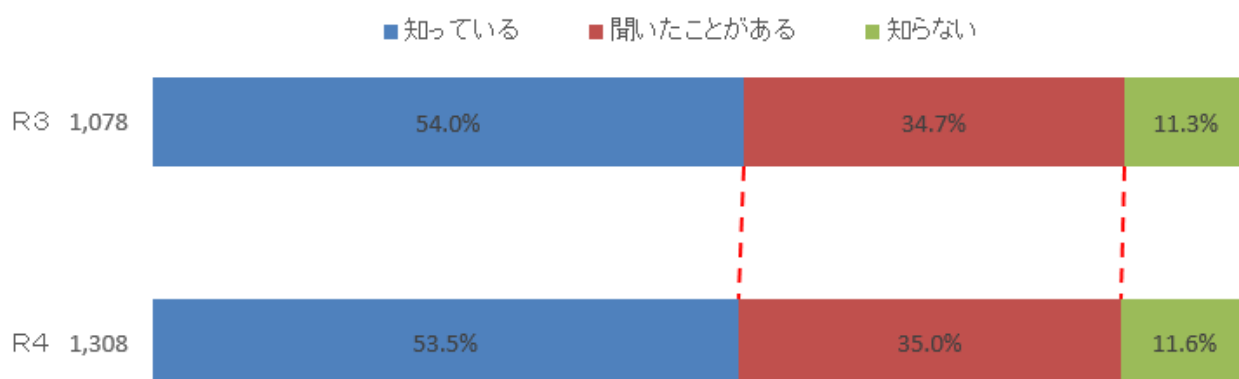
【グラフ8】 年齢と体罰容認の関係



「そう思う」の割合は40代で最も高く、「そう思わない」の割合は10代で最も高い。

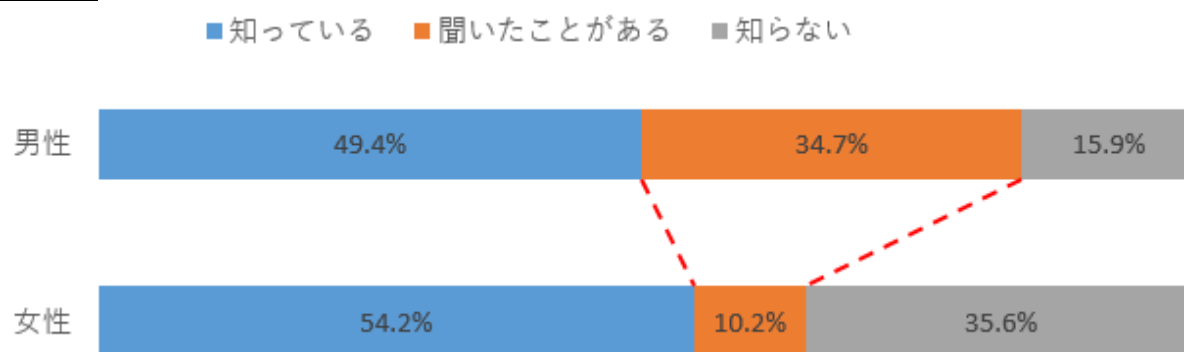
質問3 体罰が子どもに与えると考えられる影響を知っていますか。

グラフ9 令和3年度との比較



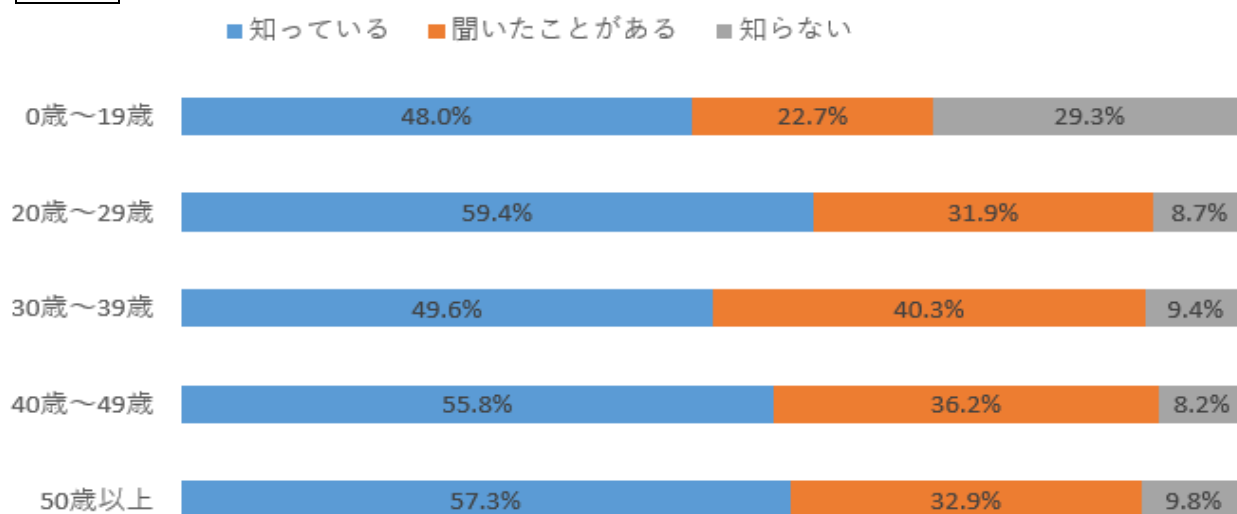
令和3年度では、「知っている」の割合は0.5ポイント減少している。

グラフ10 性別と認知度の関連性



「知っている」の割合は、女性の方が4.8ポイント高い。

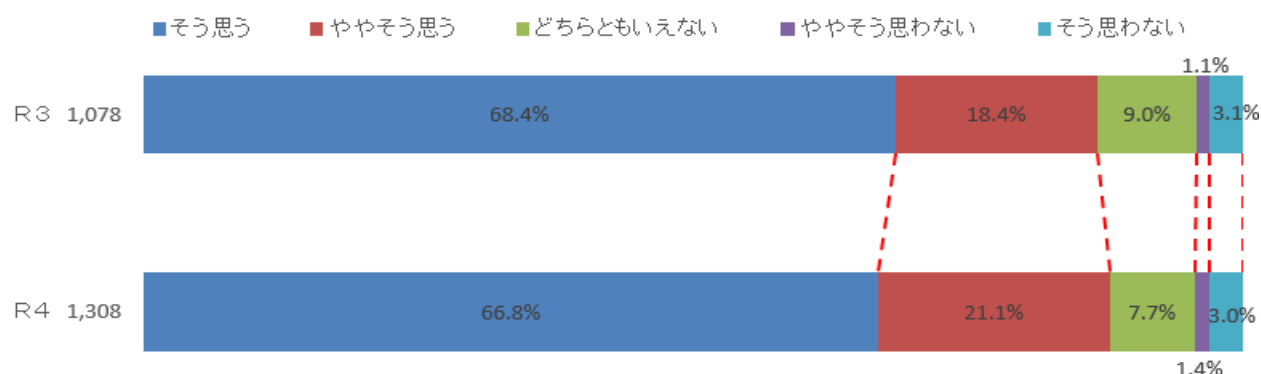
グラフ11 年齢と認知度の関連性



「知っている」の割合は20代で最も高く、「知らない」の割合は10代で最も高い。

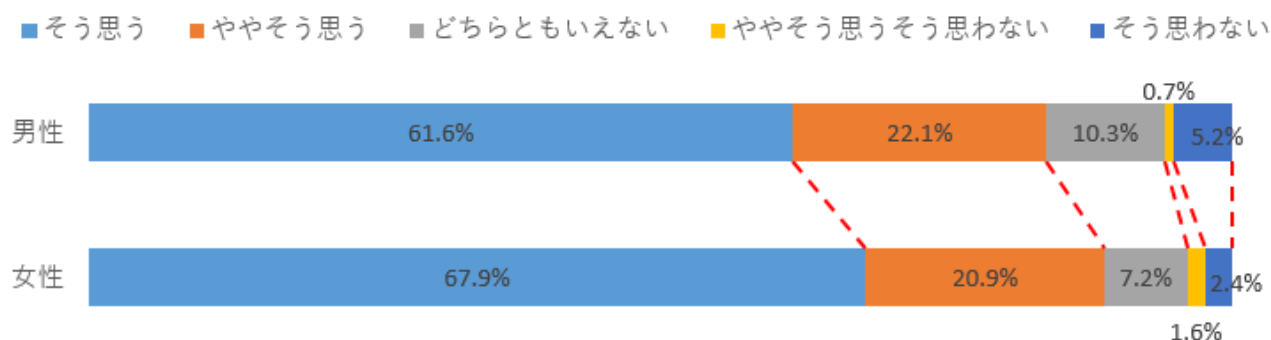
質問4 体罰以外のしつけの方法を学びたいと思いますか。

グラフ12 令和3年度との比較



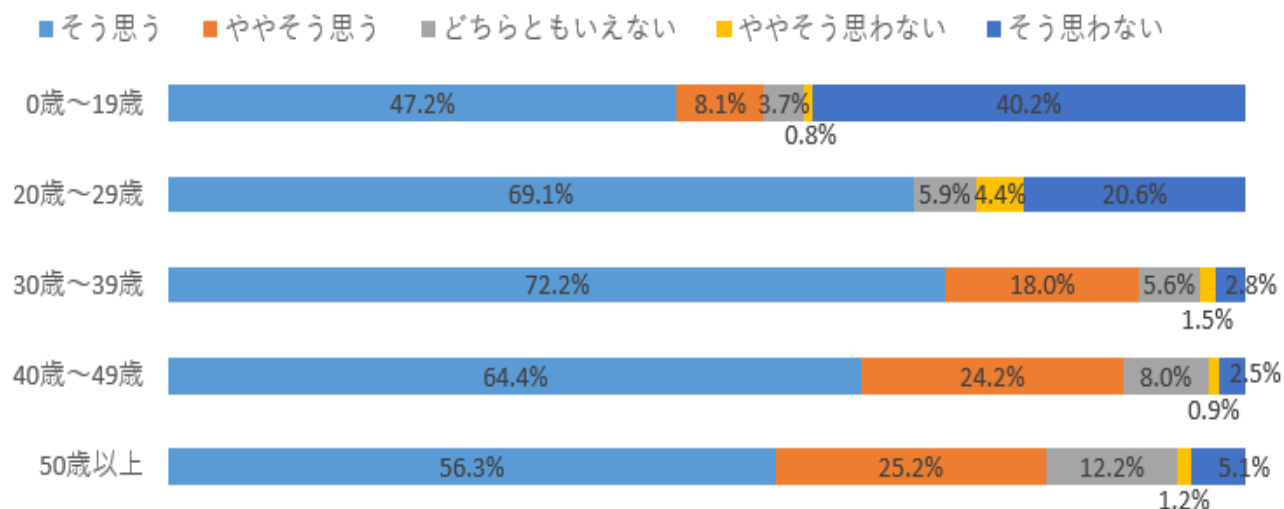
令和3年度と比較すると、令和4年度では「そう思う」の割合が1.6ポイント減少した。

グラフ13 性別と体罰以外のしつけの方法を学ぶ意欲との関連



「そう思う」の割合は、女性の方が6.3ポイント高い。

グラフ14 年齢と体罰以外のしつけの方法を学ぶ意欲との関連



「そう思う」の割合は30代で最も高く、「そう思わない」の割合は10代で最も高い。

質問5 （自由記載）子どものために必要なしつけとは、どのような方法で行うことだと思いますか。

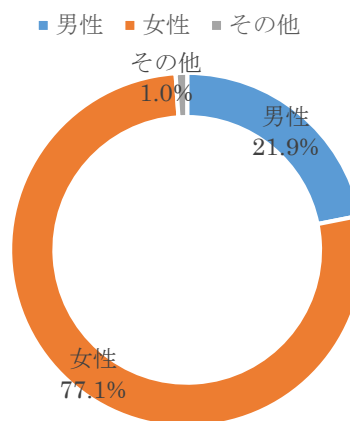
（1）自由記載の回答数：667 件

ア 上記回答者の内訳

■性別

グラフ 15

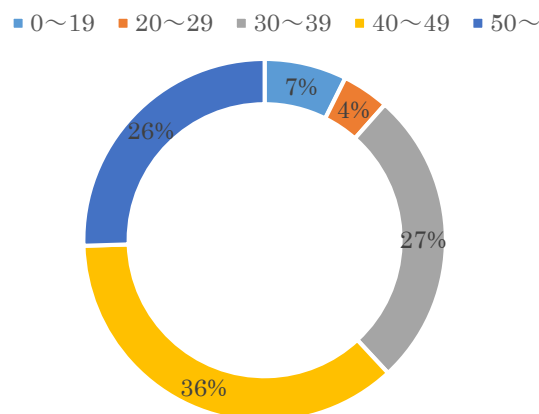
男性	146 人	21.9%
女性	514 人	77.1%
その他	7 人	1.0%
計	667 人	



■年齢

グラフ 16

0 歳～19 歳	49 人	13.2%
20 歳～29 歳	28 人	5.1%
30 歳～39 歳	177 人	35.0%
40 歳～49 歳	243 人	32.4%
50 歳～	170 人	14.3%
計	667 人	



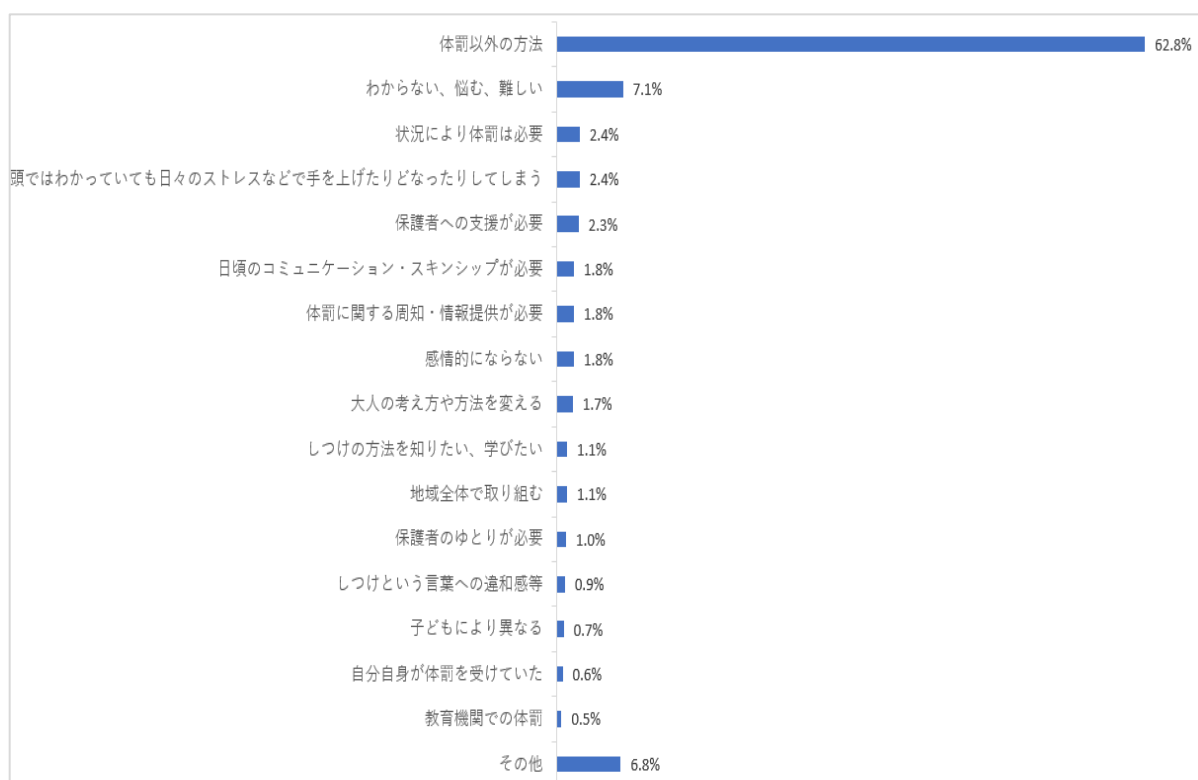
イ 上記回答の内容を以下 17 のカテゴリーに分類

- ①体罰以外の方法
- ②わからない、悩む、難しい
- ③状況により体罰は必要
- ④頭ではわかっているけど日々のストレスで手をあげたりどなったりしてしまう。
- ⑤保護者への支援が必要
- ⑥日頃のコミュニケーション・スキンシップが必要
- ⑦体罰に関する周知・情報提供が必要
- ⑧感情的にならない

- ⑨大人の考え方や方法を変える
- ⑩しつけの方法を知りたい、学びたい
- ⑪地域全体で取り組む
- ⑫保護者のゆとりが必要
- ⑬しつけという言葉への違和感等
- ⑭子どもにより異なる
- ⑮自分自身が体罰を受けていた
- ⑯教育機関での体罰
- ⑰その他

ウ 上記イの内容をカテゴリー別に集計

グラフ17



最も多い「体罰以外の方法」の具体的な内容は、以下のとおり。

- ・根気よく場面を通して伝える。認めて褒める。
- ・失敗をせめず、次に生かすために共に考え見守る姿勢をもつこと
- ・子どもを一人の人間として尊重することが、体罰をしないことにつながると思います。
- ・見本を大人がみせる
- ・いけないことをした時すぐに、目を見て真顔で同じ目線で言って聞かせる。何度でも。
- ・年齢に合わせてどうしたら良いか一緒に考え良い方に導く事だと思います。
- ・スキンシップと本人の目線でしっかりと向き合える心
- ・子供の前で他者を批判するような事や、噂話しをしない。きちんと目を見て、時間を取っ

て話しをする事だと思います。

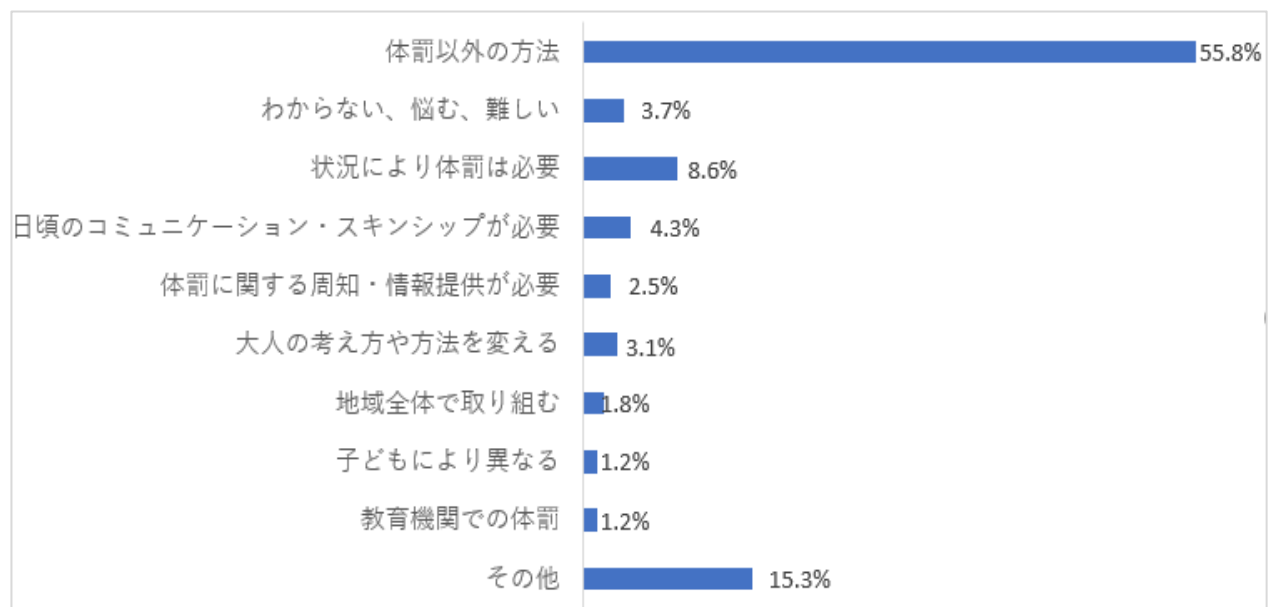
- ・暴力によらないコミュニケーション
- ・その子の年齢や性格特性などに合わせた伝え方で行うもの

「その他」の内容は、以下のとおり（質問の意図と異なる回答や、途中までしか記載がなく意味がくみ取れないものもここに含まれる。）

- ・しつけをしても本人がわかってくれないと意味がない。
- ・暴れ出したり、暴言を大声で叫び出したりする事があるため、しつけまでにたどり着かない。
- ・しつけの必要はない。
- ・しつけとは？にも人によって大きく違いがあり、正しいとかもない。
- ・子供が自分で反省すること
- ・子供が理解して正しい道に進んでほしい
- ・本当に「しつけ」が必要でしょうか。
- ・ごちゃごちゃ言うんだったらごちゃごちゃ言う人たちに育ててほしい。
- ・聞かない子は何やっても聞かないからなあ。親が子から虐待されて終わりです。
- ・子どもをしつける能力が無いならば、子どもを作らないことが最も有効な対策である。

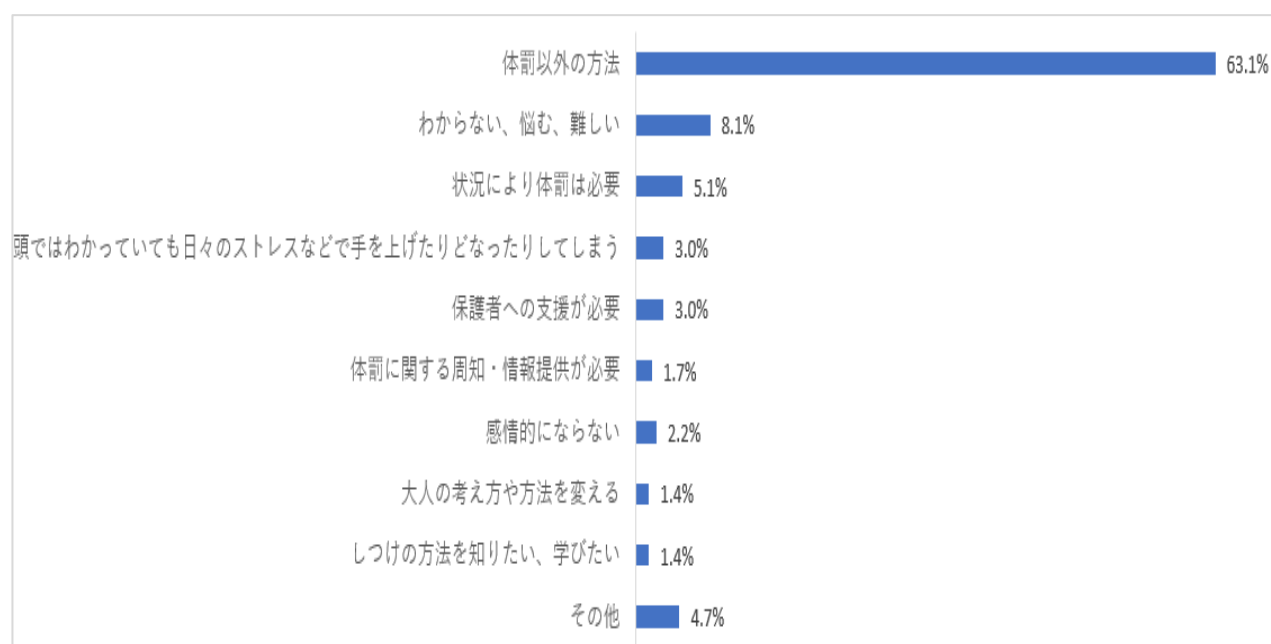
エ 上記イの内容について、性別や年齢別での回答傾向

グラフ 18 男性の回答傾向



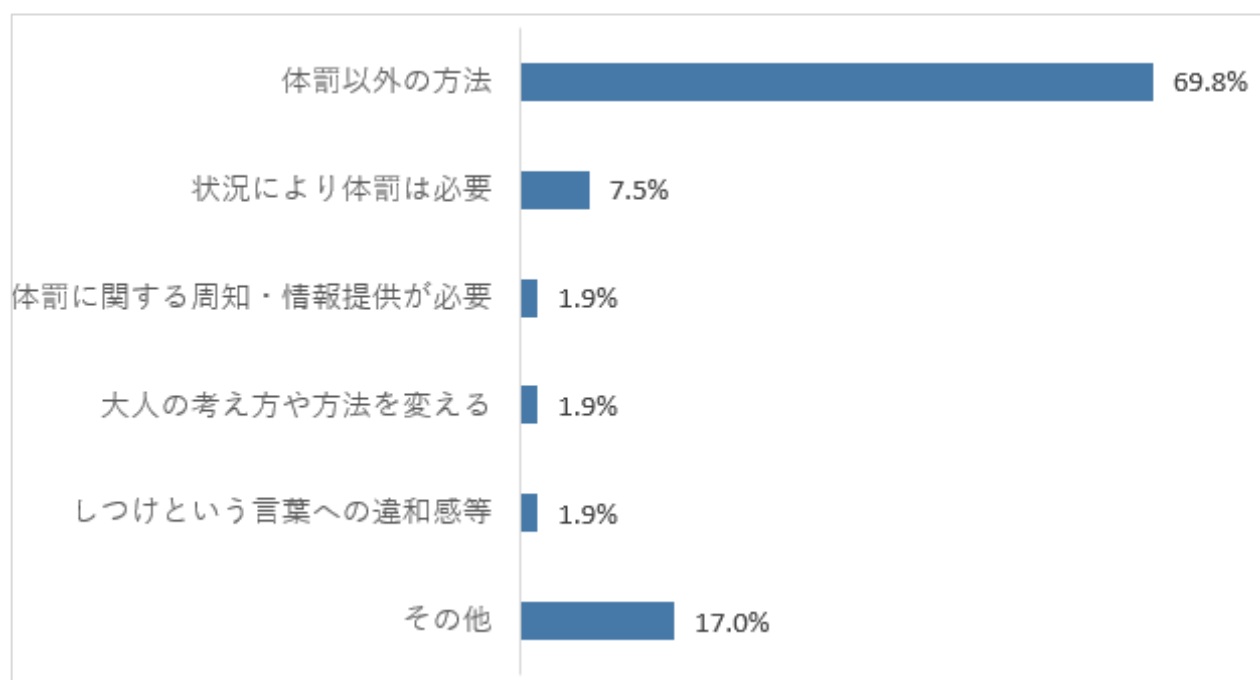
「体罰以外の方法」に次いで割合が高かったのは「状況により体罰は必要」で、その次が「日頃のコミュニケーション・スキンシップが必要」であった。（その他を除く）

グラフ 19 女性の回答傾向



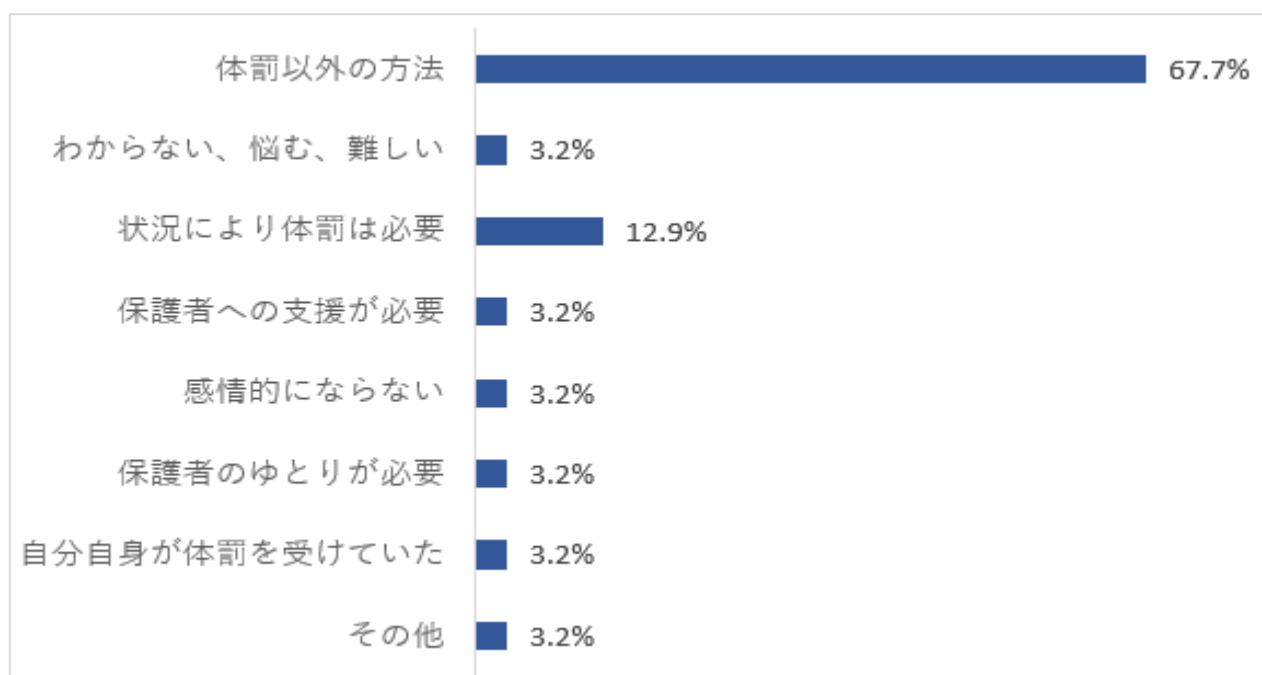
「体罰以外の方法」に次いで割合が高かったのは「わからない、悩む、難しい」で、その次が「状況により体罰は必要」であった。（その他を除く）

グラフ 20 0歳～19歳の回答傾向



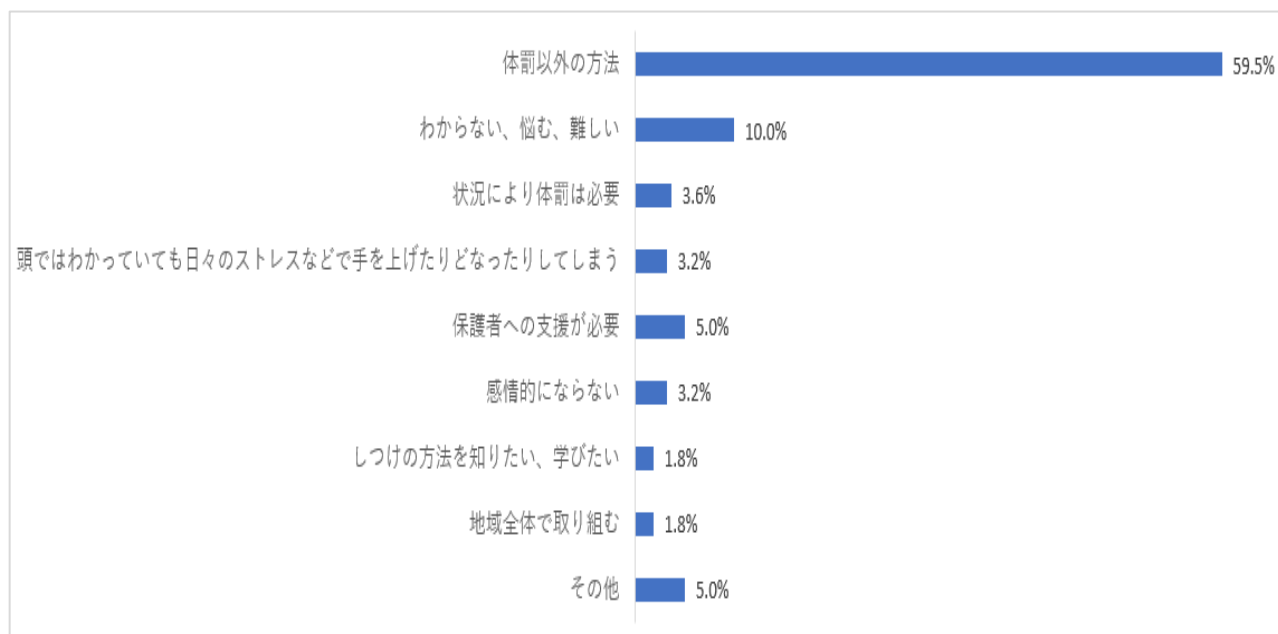
「体罰以外の方法」に次いで割合が高かったのは「状況により体罰は必要」で、その次が「しつけという言葉への違和感」「大人の考え方や方法を変える」「体罰に関する周知・情報提供が必要」がそれぞれ同数であった。（その他を除く）上記6項目以外の内容の回答はなかった。

グラフ 21 20 歳～29 歳の回答傾向



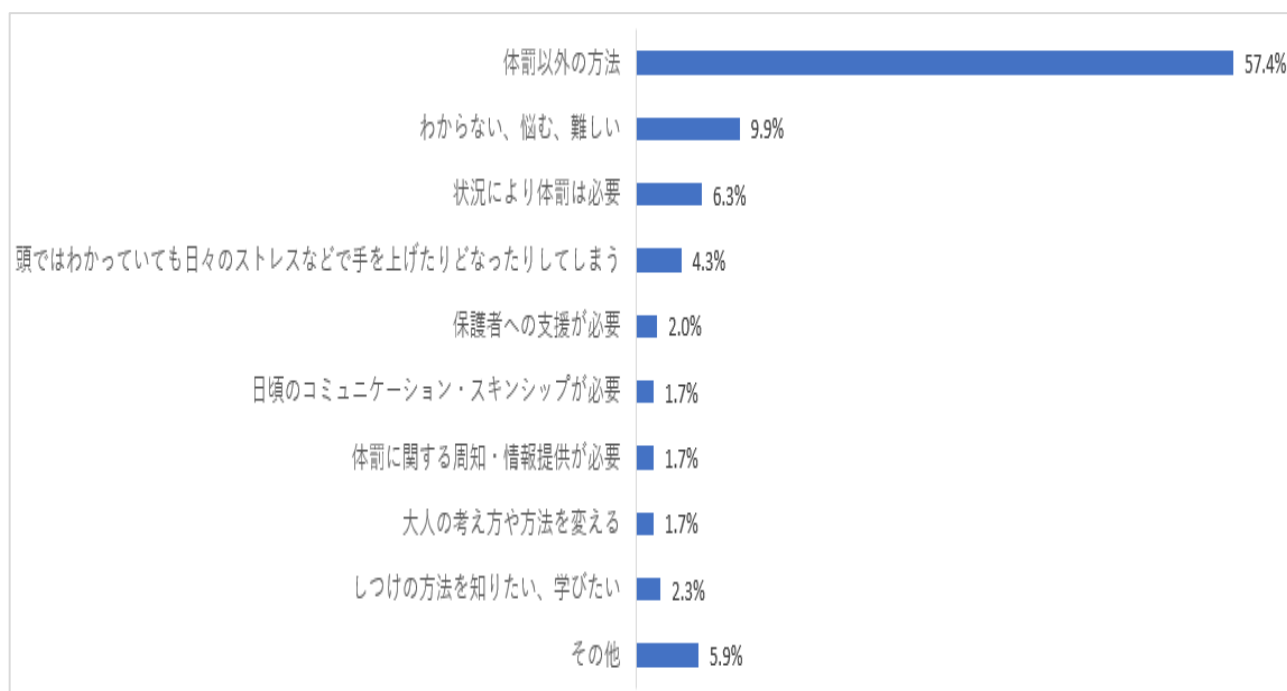
「体罰以外の方法」に次いで割合が高かったのは「状況により体罰は必要」で、その次が「自分自身が体罰を受けていた」「保護者のゆとりが必要」「感情的にならない」「保護者への支援が必要」「わからない、悩む、難しい」がそれぞれ同数であった。（その他を除く）上記 8 項目以外の内容の回答はなかった。

グラフ 22 30 歳～39 歳の回答傾向



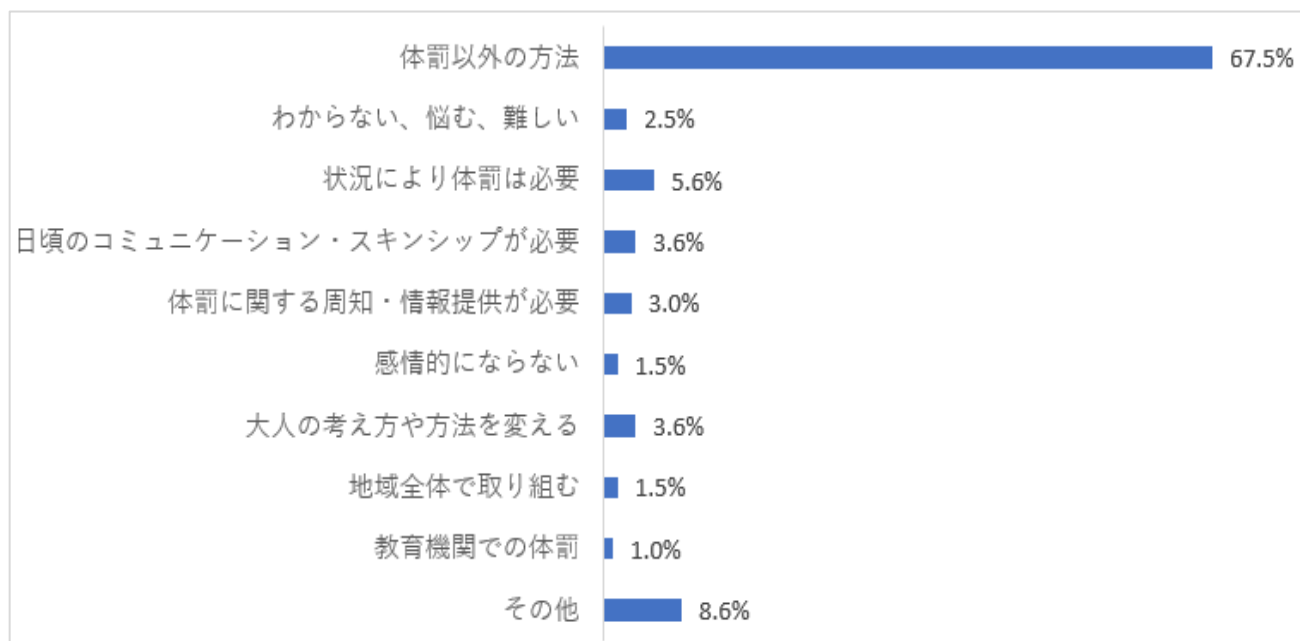
「体罰以外の方法」に次いで割合が高かったのは「わからない・悩む、難しい」で、その次が「保護者への支援が必要」であった。（その他を除く）グラフの 9 項目以外にも、1 % 台のものが複数見られた。

グラフ 23 40 歳～49 歳の回答傾向



「体罰以外の方法」に次いで割合が高かったのは「わからない・悩む、難しい」で、その次が「状況により体罰は必要」であった。（その他を除く）グラフの 10 項目以外にも、1 %前半台のものが複数見られた。

グラフ 24 50 歳～の回答傾向



「体罰以外の方法」に次いで割合が高かったのは「状況により体罰は必要」で、その次に「大人の考え方や方法を変える」「日頃のコミュニケーション・スキンシップが必要」がそれぞれ同数であった。（その他を除く）グラフの 10 項目以外にも、1 %前半や 1 %未満のものが複数見られた。